

令和８年度

教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	43	学校名	多治見高等学校
------	----	-----	---------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域を担う人材を数多く輩出してきた、郷土の発展に寄与する伝統ある高校として 地域課題を解決する探究的な学びと、確かな学力の修得を通して 社会の中心となって自ら未来を切り拓くグローバル人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	自ら未来を切り拓き、社会に貢献できる人物の育成 ・ 一步前に踏み出す行動力 ・ 粘り強い探究力 ・ ともに高め合う協働力		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	・ 高い志とチャレンジ精神を持ち、主体的に自らの進路を切り拓くための「一步前に踏み出す行動力」を有する生徒 ・ 社会で求められる基礎的・汎用的な学力と能力を身に付け、問題解決に向かうための「粘り強い探究力」を有する生徒 ・ 自他の個性と生命を尊重する心を持ち、地域や社会や人とのつながりを大切にして「ともに高め合う協働力」を有する生徒	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	・ 一人ひとりの適性や興味・関心に応じた、将来の進路を見据えた主体的・協働的で深い学びのなかで、確かな学力を身に付けられる教育課程の編成 ・ わかる授業と探究的な学びを通じて、自らの知識と社会の諸事象を総合的に考えて課題を解決する力と、自らの考えを伝える力を育むための学習活動の展開 ・ 生徒一人ひとりの個性や長所を尊重するとともに、仲間との協働的な活動の機会や、自らの進路について深く考えるための機会の提供	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・ 学びに対する旺盛な興味や関心を持ち、大学等への進学を目指して主体的に学び、自らの可能性を広げたい生徒 ・ 文武両立を目指して、学習や部活動に向上心を持って仲間とともに精一杯取り組み、自らを成長させたい生徒 ・ 他者を思いやり、校内外の活動に積極的に参加して、周囲の人と協力してよりよい学校、地域、社会を築いていきたい生徒	
学校の抱える課題	・ 学習に対して、受け身的、依存的な傾向が見られ、主体的に取り組む姿勢が不足している面がある。生徒自身が学びの喜びや達成感を感じられるような働きかけが必要である ・ 学力到達度の格差が大きいため、上位者、遅進者それぞれの学力層に応じて焦点化した、効果的な学習支援の在り方が求められる ・ 選抜性の高い大学や県外の大学への進学を志そうとすることに消極的な傾向があり、生徒の自己肯定感を高め、自身の可能性を最大化していこうとする姿勢を涵養していく必要がある ・ 多様な教育活動を通して、主体的に課題に挑戦してみることや他者と協働して創意工夫する機会を増やし、生徒の自己指導能力の向上を図る必要がある ・ 業務量の偏りを現状に照らして可能な限り分配してはいるものの、使命感、責任感が高いがゆえに生ずる、一部職員の長時間勤務が常態化している		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	・ 生徒自身が深く考える習慣をつけるための新たな評価のあり方について教科間・教員間で検討を進め、授業実践へとつなげていく ・ 授業を通して生徒の自己肯定感を高めていくための指導方法について教員間で共有を図り、生徒の学力向上へとつなげていく	
	進路指導	・ 生徒の視野と世界を広げ、1人ひとりが主体的に進路を選択し、高い志とチャレンジ精神で進路志望を実現していくための指導と支援を行う ・ 教科学習と課題探究型学習の両立を図り、特に教科学習面の基礎力定着に注力する	
	生徒指導	・ 生徒の主体的な行動を支援しての安全・安心な学校づくりを行う ・ 不登校やいじめに対して、学校内外のリソースを活用した多層的な支援体制を整備し、生徒、保護者及び教職員への迅速かつ適切な指導、支援を行う	
	保健管理	・ 一人一人が自分の心身の健康・体力を把握し、自ら意図的に管理できる生徒を育成する ・ 勤務時間管理の徹底、及び勤務時間を意識した柔軟な働き方を推進する	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	３つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	・ 適切な評価のあり方を吟味検討し生徒が深く思考する学習姿勢と自己肯定感を向上させる指導を行う	施策Ⅱ-8	・ 公開授業週間における 生徒の授業評価				
	・ 教員間で積極的な情報交換を通して生徒の主体的な学習支援に繋がるＩＣＴ活用の強化・推進をする	施策Ⅱ-9	・ ＩＣＴ活用推進に関する 取り組み状況の変化				
	・ 将来を見据えた魅力的な学校であることを生徒自身が自負できるような授業や、探究活動を推進する	施策Ⅳ-23	・ 学校評価アンケートの 対象項目における生徒、 及び保護者による評価				
	・ 生徒の実態に即した少人数・習熟度別授業のより一層の充実を図る	施策Ⅳ-20					
進路指導	・ 課題探究型学習でふるさと教育を進め、生徒が社会での自分の役割を考え、進路を熟考するよう図る	施策Ⅰ-4	・ 進路結果等の調査、分析 及び評価				
	・ 生徒と保護者が視野を広げられる進路情報の提供に努め、生徒の進路意識を高めて希望の実現を支える	施策Ⅱ-8	・ 学校評価アンケートの 対象項目における生徒、 保護者の評価				
	・ 地域や大学等と連携したキャリア教育を実践し、 生徒のキャリア発達や自己実現に向けた支援を行う	施策Ⅱ-13	・ 学校運営協議会委員及び 関係部団体等による評価				
	・ 校内の補習や自習の環境を整備し、生徒１人ひとりの進路希望実現に向けた取り組みを支援する	施策Ⅳ-23	・ 外部発表会等の応募実績				
生徒指導	・ 当事者意識を持つての生徒の主体的な判断や活動を支援できる体制づくりを行う	施策Ⅰ-1	・ 学校評価アンケートの対 象項目における生徒、及 び保護者による評価				
	・ 学校活動全体で、規範意識や基本的モラル・マナーの育成を図る	施策Ⅰ-2	・ 学校運営協議会や育友会 役員会での評価				
	・ 交通安全、情報モラル、薬物乱用防止等の指導や講話の実施などを行い、安全意識を高める	施策Ⅲ-19	・ 実態把握を通しての評価				
	・ 多層的な支援体制を整え、不登校、いじめの未然防止に努める	施策Ⅰ-3	・ 各種調査の結果を踏まえての 実践検証				
保健管理	・ 生徒自ら自分や他者の安全、健康管理に努め各種健康診断や検査等の結果を適切に活用する	施策Ⅳ-28	・ 診断・検査の結果を速やかに生徒に伝え、事後指導を徹底する				
	・ 「早く家庭に帰る日」、「ノー残業デー」のこれまで以上の意識付けを図り、適切に運用する	施策Ⅳ-27	・ 在勤時間を過ぎて勤務する際の事前申告の徹底、及び、出退勤システムを活用しての事後検証を行い勤務状況改善を図る				
	・ 管理職は職員の在校時間を把握した上で、在校時間過多の職員に対して適切な助言、指導を行う	施策Ⅳ-27					
	・ 校務の効率化に繋がるＩＣＴ・ＡＩ活用法の研修と実務におけるＯＪＴを推進する	施策Ⅳ-26					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和９年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和９年 月 日